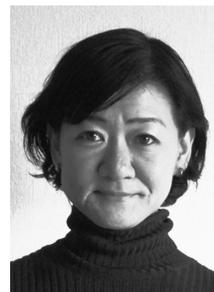


粉体工学に出会って

Encounter with Powder Technology



池田 純子*
Junko Ikeda

昨年7月、イギリスのブリストルで3年ぶりに師匠に会う事ができた。御年80歳、ちょっと小柄なイギリス紳士、いつもニコニコしている、その風貌とは異なりとてもエネルギッシュ、そしてちょっぴり（いやだしぶ）早口で話す。私の人生を大きく変えてくれた人の一人だ。私はパルスNMRで粉体の濡れ性や分散性を測定する分析者だ。好きが高じて数年前に会社を作ってしまった経営者でもある。

私が粉体工学に出会ったのは30歳。上野の小さな輸入商社に分析アシスタントとして入社した時だ。身の回りのあらゆるものが粉体からなる事も粒子径分布という言葉すら知らない全くの素人であった。海外の展示会に行き日本にはない粉体評価機器を探してくる事も仕事の一つであった。今経営者になり感じているが常にマンパワー不足の中小企業にて入社数年の無知な人間を海外にポイッと送り出してくれた会社に感謝している。このチャンスに“絶対何か持ち帰る”と必死で新しい機器を探したのを覚えている。“湿式での比表面積計測”という説明文に驚き日本に持ち帰った。数か月後、国内の展示会で紹介する事になったが大勢の人前で話した事もなく粉体工学の素人の私は顧問の先生にお願いした。おかげで1年目から試験依頼は100社を超えた。しかし得られるデータと機器の説明内容がどうも異なる。少なくとも週に1回は開発者の一人（師匠）にメールで質問していた。毎回丁寧な説明と沢山の論文で回答をくれた。会った時にはずっと後を追いかけて回すように質問していた（これは今も変わらない）。英語を話すことも聞き取る事もできなかった私に図や例えを沢山用いて説明してくれた。言語がスムーズに伝わらない相手に何度も何度も繰り返し説明する師匠の辛抱強さがなければ今の私は存在しない。徐々に数値が示していることが解ってきた。そしてNMRでの評価法にのめり込み夢中になった。得られたデータを眺めていると粉体やスラリーの背景から見えてくるものがある。パズルの様に組み合わせて考えて

いる時間が最も楽しい。もの珍しい評価法に関心を持つお客様はあらゆる分析機器を所持する日本を代表するような大手企業、もしくはかなり研究熱心で常にアンテナを張り新しい事に挑んでいる大学の先生。間接的にでも最先端の研究の役に立っているのではと嬉しかった。小さな商社の分析員には変わりなかったが、出会った人々から少しずつ雑誌や学術書へ寄稿依頼、講演依頼を頂けるようになっていた。退職するまでにNMRでの評価法を他の粉体評価法に並ぶくらいに一般化する事が目標にもなっていた。しかし私は考える能力も理論的に説明する力も足りない。このままで良いのだろうか悩んでいた。有難い事に社会人ドクターを提案くださった先生がいた。既に40代に入っていたが迷わず博士後期課程に入学した。その後、想定外の事があり師匠から「日本で会社を作るのはどうだろう。」と提案を受けた。流石にこの時は迷った。物凄く迷った。しかし「そんな面白い事断る理由なんかないでしょ。」と背中を押して下さった方がいた。

起業とは大きな野心を持って成功してやる！とどこか華々しい世界の人が行う事だと思っていた。実は好きな事を好きなように続けて生きていく選択肢が他になかったただけだ。崖っぷちの決断だったのだ。子供の頃からコツコツ貯めた全財産を投じて会社を設立した。NMRが届き核磁気共鳴を示すFIDカーブを見た時、一生測定ができるかとホッとした。

男女共同参画社会が進められるなか色々な所で職務を頂き恐縮する日々である。私が現役（最初の20代の頃）の学生時代、理系女子学生は少なかった。おそらく粉体工学を研究する学生の割合はもっと低かったのではと想像する。最近は女子学生や女性研究者に出会う事も増えてきたと感じる。結果は既に出てきているのではないだろうか。近隣大学の学生が研究に悩み当社HPを見つけ相談に来てくれた時は心から嬉しかった。性別なんか関係なく誰もが好きな事を学び好きな事を仕事にする。工夫次第で効率的に仕事ができる便利な世界になったのだ。ライフステージにより一旦家族のサポートに専念する事や、大学に戻り再び学び直す敷居が低くなるような日本になってほしい。私は粉体工学の世界にたまたま入り込み出会った多くの人々が助けて下さり人生が変わった。まだまだこれからだけれど、出会った人々から有り余るほど享受いたしました事を同じように次の新しい世代に繋いでいきたい。

〈著者紹介〉

2001年北海道大学水産学部海洋科学科卒業、受託分析企業入社。2007年日本ルフト（株）入社。2021年マジェリカ・ジャパン（株）設立、新潟大学自然科学研究科博士後期課程修了（工学）。現在、マジェリカ・ジャパン（株）代表取締役、東北大学多元物質科学研究所客員准教授、日本粉体工業技術協会微粒子ナノテクノロジー分科会副代表幹事、「粉体技術」誌編集委員
専門：微粒子計測、濡れ性、界面、分散性

* 連絡先 j.ikeda@mageleka-japan.com